

地域スポーツ施設としての市民体育館の役割について

－A 市民体育館に着目して－

村上 晶夫 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 菅井 京子

キーワード：市民体育館，スポーツを楽しむ市民であふれている・ふれあう・要の場所

序論

インターンシップ実習に行ったことから，市民体育館がその市民にとって，どのような場所であるのかを考えるようになった．本研究では，A 市民体育館に焦点を絞って，その利用者と利用状況を詳しく調べ，さらに A 市民体育館の館長および次長にインタビューをして，これらを整理考察し，地域スポーツ施設としての市民体育館の役割を明らかにする．

1.市民体育館の目指すものについて

城陽市では，「健康と生きがいを育む街づくり」を市政の重要課題におき，A 市民体育館では，レクリエーションの普及・振興と共に，その施設や環境の整備に取り組んでおり，幅広い年齢層の市民の皆が日常的にスポーツを楽しむ施設を目指している．また，ふれあいの場として広く愛され，親しまれることを目標としている．

2.利用者と利用状況について

城陽市の体育館には，トレーニングルーム，野球場，テニスコートがある．その利用者と利用状況を調べた結果は次のとおりであった．それぞれの施設について，快適に使える 1 日の最大人数を 100%とし，実際の利用者数を%で表し，稼働率としてまとめた．トレーニングルームは全体的に利用者は多い．1 日に快適に使える人数 110 人を 100%とすると，週日 72 人で 65%，週末 92 人で 83%であった．しかし週日の午前の利用者が少ない．そこで利用者を増やすターゲットとして週日の午前に来られると思われる女性，幼児，乳児や高齢者をねらうスポーツ教室「エアロビクス教室」，「親子仲良し体操教室」，「長寿体操教室」などが考えられる．テニスコートは週日の利用者がやや少なく，週末は多い．1 日に快適に使える人数は 28 人で，稼働率は週日 12 人で 42%，週末 23 人で 82%であった．週日の午前中は特に少ない．そこで専業主婦をターゲットとした「初心者テニス教室」を考えた．野球場は全体的に週日の利用者がとても少なく，週末はやや多い．1 日に快適に

使える人数は 100 人であり，稼働率は週日 35 人で 35%，週末 75 人で 75%であった．そこで増やすターゲットとして週日の午後に小学生や中学生を対象とした「初心者野球教室」が考えられる．このような教室をしていくことでそれぞれの施設の稼働率を 100%まであげることができる．また A 市民体育館は指導者養成教室をしている．その指導者に指導の場を提供していくと体育館のイベントを企画できるようになる．

3.市民体育館の役割について

次に，A 市民体育館の館長と次長にインタビューを行った．パンフレットを参考にして，それらをまとめると次のようになる．城陽市の市民体育館の理想とは，『スポーツを楽しむ市民であふれている場所』，さらにその『スポーツで共にふれあう場所』，そして『ひとつになる要の場所』，いわゆる共同体の核というような場所であるということがわかった．

結論

「スポーツを楽しむ市民であふれている場所」を実現するためには，稼働率を 100%まであげていくことである．「スポーツで共にふれあう場所」になるためには，指導者養成教室の実施を通して，育った指導者がスポーツフェスティバルを企画運営する．そのことによって人の「ふれあい」が実現できる．そして「ひとつになる要の場所」を実現するために，春夏秋冬にスポーツイベントを行い昔ながらの祭りを復活させるのである．そして体育館は城陽市の人たちにとってみんなで共に楽しむ場所となり，それだけでなく，困ったときには，助け合う場所となる．いわゆる，共同体の要になることができる．これが A 市民体育館が，市の避難場所と指定されている由縁でもある．

引用・参考文献

城陽市活動センター，<http://www6.ocn.ne.jp>
2013/4/1 閲覧